



まだ若い

著名なロッドビルダーたちに比べたら、まだまだ新参者だ。——ニューヨーク州在住のロバート・スミスは、あなたがそのように認識したとしても、誰も又句を言わないだろう。

しかし外見で判断してはいけない。まだ40歳代半ばだというのに、彼はすでにビルダーとして20年近くのキャリアがある。ただ他のビルダーと違って、自分のロッドを売るようになったのはここ10年のことだ。

最初の15年間はロッドビルダーとして立ち位置を探る期間だった。2007年、彼は満を持して「ヘンタラックス・シリーズ」を発表した。スミス独自のフライロッドの世界は、その時から始まった。

ニューヨーク育ち

ロバート（ロブ）・スミスは1967年2月、ニューヨーク州はホワイトブレインズに生まれ、ニューヨークの都市部で育った。しかし多くのニューヨークカーとは違って、彼は大自然に片足を突っ込んだ恵まれた環境で育った。

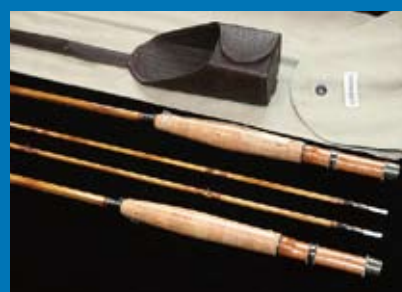
「自宅が5000エーカーもある自然保護区域に隣接していたんだ。家の裏にはトラウトがいた。学校を終えて釣りがしたければ誰にでもできたものさ」彼の人生で釣りは非常に大きな役割を果たしてきた。「初めて釣った魚のことを良く覚えている。自宅の前にあった小川で釣ったナマズだ」

その最初の魚を皮切りに、週末という週末は父親とともに釣りをして過ごすようになる。その後、徐々にバスフィッシングへ傾倒し、バス釣りをこよなく愛するようになる。「自分は今熱狂的なバス釣りファンだ」と彼は笑う。「もちろんトラウトフィッシングにも熱狂的だけどね」

始まりはフライ・セット

スミスの足跡は多くの点で普通のビルダーとは異なる。フライフィッシングの世界に足を踏み入れたのもかなり遅い。

「釣りは続けてきたけれど、娘が生まれた1991年までフライフィッシングは試したことすらなかった。僕の釣り好きをよく理解してくれる妻が、クリスマスプレゼントにフライフィッシング用具のアウトフィット（セット）をくれた。そして、それが魔法だった。それからというもの、フライフィッシングをしている時は人生のストレスを完全に忘れることができた。要するにフライフィッシングに取り憑かれてしまったわけだ。自分が好きなことに没頭するといつもそうなのだが、まあフライフィッシングと恋におちたといえる」したがって彼が自分のロッドを作り始めるようになったのは自然な流れであった。「まもなく、グラフィイトでロッドを作り始め、そしてバンブーロッドの存在を知ることになったのさ」フライフィッシングにできるだけの



Radical Bamboo Rod Builder Stories ⑤

Rob Smith ロブ・スミス

text Todd E. Arai Larson
タッド・ラーソン/シンシナティ州/ホワイトフィッシュ・プレス

translation 永野竜樹
ながのたつき/東京都

「どこにもない五角、を生んだ若き前衛

僕のロッドビルディングの手順は、他のどのビルダーとも異なっていたんだ。ロッド作りのエキスパートたちに尋ねてみると、お前のやることなすこと、すべて間違っている、と指摘された。——ロブ・スミスは切なげに言った。「僕のはギャリソンに沿った作り方ではないので…」
「当然いろいろと反論がでたね」



天才的だ。まさに自分のロッド作りの出発点がここにある。

当時のスミスの本業は、プロのカメラマンだった。世界屈指のカメラマンたちのアシスタントを務めていた。そしてストレス解消のためにバンブーロッド作りをしていた。

しかしバンブーロッドの芸術性に目覚めてくると、彼はとても面白いことに気がついた。クロンプトンから学んだ自分のロッドビルディングの手順が、インターネット上で調べる他のどのビルダーとも異なるということだった。ネットでいろいろと質問をすると、ロッド作りのエキスパートたちからは、お前のやることなすこと全て間違っていると指摘された。

「僕のはギャリソンに沿った作り方ではないので」と彼は切なげにいった。「当然いろいろと反論がでたね」

クロンプトンの教え

ペインや、レナード、トーマス、エドワーズらに触発されるロッドメーカーは数多くいるが、スミスの場合は最初から独自の道を歩んだ。「自分はロバート・クロンプトンと同じ考え方」と彼はいう。

クロンプトンはミネソタ州出身のアマチュア・ロッドビルダーで、1920年代から1950年代にかけて、全米で大いに影響力のあった人間だ。「僕もクロンプトンのようにロッドビルディングを深く理解しようと思ったんだ」

時間を使う一方で、彼は実用的で廉価なバンブーロッドをたくさん集めていた。そんなひとつにホロックス・イボットソンの「トンカ・クイーン」(スミス曰く過小評価される驚くべきロッド)がある。ある日スミスは、そのロッドのティップを交換しなければならぬことに気付いた。幸いなことに、バンブー・マイクの愛称で全米で最もよく知られたロッド・レストアラ（修理人のマイク・ロングウィルがそばに住んでいた。「彼は素晴らしい男で、僕はロッドビルディングの基礎を彼の地下室で何時間にもわたって学んだ。ある日彼がこれを読んでみると、『フレッシュウオーター・バンブー・ロッドとその作り方』という原稿の束を渡してくれた。ナット・ユスランが書いたものだと聞かされた。それは後になって、実際は天才ロッドメーカーのロバート・クロンプトンが書いたものだとわかった。ユスランもクロンプトンも5角形のロッドに特化しているビルダーだ。その二人に私は大きな影響を受けた」

ギャリソンとは違うんだ

クロンプトンの原稿に基づいて、ロブ・スミスがバンブーロッドを作り始めたのは、1993年頃のことだ。クロンプトンのこの原稿は書籍として発行されることはなかったものの、ごく限られたロッドメーカーには、宝物のように大事に読み回されていた。スミス曰く「中身はシンプルだが発想が